



企画運営受託者として中日新聞社が主催者を全面サポート

「安城市 食と農の祭典 安城マルシェinアンフォーレ」開催

25日・26日の2日間で来場者17,000名!!



明治時代の大規模な開墾により農業の先進的な取り組みが行われてきた安城市。かつて「日本のデンマーク」と評された安城市で、農業の未来を見据え、地産地消・農商工連携をテーマとしたイベント「食と農の祭典 安城マルシェinアンフォーレ」が開催された。

本事業は今年が初開催である。安城市・地元NPO・農業団体からなる実行委員会が主催となり、中日新聞社は企画運営として本事業を受託した。

元ローソンの社長・都築富士男氏を招いての記念講演会や、幻の安城梨“甘ひびき”を使ってのスイーツ開発、大同大学による農業へのドローン活用セミナーなど、食と農に関する30を超えるコンテンツを実施した。

広場で開催したマルシェには、市内外の50を超える出店者を迎え、地元野菜の販売や、地産地消にこだわった加工品を求める人々で賑わいを見せた。開催日の11月25日・26日の2日間で集客目標5,000名に対し、17,000名が訪れ、安城の食と農を発信する大成功のイベントとすることができた。

広告三部三河アドセンター 小椋 昌統

←11月24日付 中日新聞朝刊 西三河版15段



↑ホールでのトークセッション



↑屋外ステージでの農業女子トークショー



↑屋外ステージでの人だかり



↑マルシェ全景

講演会やセミナー・トークショーなどいずれも多くの観客でにぎわいを創出。中日新聞の記事でも取り上げられました。